

# 園だより



駿河台大学第一幼稚園  
9月

今年の夏休みも暑い毎日でした。この長い酷暑の日々は、この先の夏も変わることがなさそうです。この暑さとの身体の向き合い方、体力や気力の維持の仕方、家族の体調管理など、考えることはたくさんありますね。また、自然災害や水の事故等々身を守る術なども、これまでの経験値からだけではなく日頃から情報の取得やその共有を、家庭の中で話題にする必要がありそうです。園でも、職員でこういう時はどうするかなど、言葉にして対応力をあげていきたいと考えます。

始めの保護者会でお話したように、学年毎に育ててほしい願いが違います。その願いに向かって、一つ一つの生活や活動への取組をしていきます。大きな行事や活動が多くなりますが、その当日だけに意味があるのではなく、子ども本人が何かを楽しみにしたり、友達と目標を共有したりして向かっていく充実感ある日々の積み重ねこそ重要です。子ども自身が自分と向き合いながら様々な思いや感情を抱き、どれほど生活に意欲をもって楽しめるようになるか。また、考えを巡らせられるかなど歩幅はいろいろでも園生活の中で吸収してもらいたいと思っています。

7月の合宿での年長の姿には、この合宿を楽しみたいという確かな意思が感じられました。次は何があるの？という期待する姿があり、用意する物がわからなくなっても、このあとどこに行くか聞き逃しても、甘えるでも泣くでもなくいい意味での前向きの緊張感がありました。言葉はよくありませんが、くらいついてきていたと感じています。だからこそ、楽しかった！という声が聞かれるのだと思います。今年の先生達の研究テーマは、子どもの好奇心の芽を育てる～身近な自然環境にときめき、ひらめきながら～です。

自然に触れて学ぶことは、大人も同じでパプリカを植えて2か月近く、緑色のピーマンの姿のまま変化がありませんでした。すっかりピーマンを買ってしまったと残念に思っていました。合宿の日の朝黄色く色づいたパプリカに気づいた時には、大喜びでとびあがりました。



残念がって温かく見守らなくなった自分が恥ずかしいです。どこまでも信じて諦めず、期待することの大切さを感じています。子どもたちのよい所を見つけて伸ばす！これこそが子育てや幼児教育の楽しみですね。二学期を充実させていきましょう。